

新潟大学との協働によるオンライン診療実証事業

－ 2040年を見据えた持続可能な新たな地域医療を目指します－

燕市では新潟大学が開発したシステムを使用したオンライン診療実証事業を弥彦村とともに7月から実施します。

これまで燕市では、高齢者人口がピークを迎え、生産年齢人口の激減が見込まれる2040年を見据え、「転ばぬ先の医療」推進プロジェクトに取り組んでおり、この度当初からのアドバイザーである新潟大学が開発した、ドクターバンクと一体となった「国内初」の遠隔診療システムである「ポータブルオンライン診療システム」を利用し「オンライン診療実証事業」を実施します。この実証事業により得られたデータや知見を活かし、この地域に合った、この地域オリジナルの持続可能な地域医療提供モデルの構築と医療DXの推進を図ります。

【新たな地域医療構想を見据えた「オンライン診療実証事業」概要】

1. 目的：オンラインで繋がることにより地域ニーズにあった多様な診療モデルを検討・実証する
2. 内容：
 - ・新潟大学 社会連携推進機構 地域医療DX共創IP（略称NHDX）が開発した「ポータブルオンライン診療システム」を使用
 - ・燕市医師会で事業参加の意向を示された医師と実際に定期受診して事業に同意した人がオンラインで診療を実施
 - ・訪問看護等が同席する場合も想定
 - ・既存のスマートフォンやパソコンの使用が可能
3. 実施スケジュール（予定）
 - 6～7月 参加意向調査と実証事業準備
 - 7～8月 事業実施（オンライン診療システムを使用した診療を実施）
 - 9月～ 実施結果をとりまとめて評価し、今後の活用について検討

※「転ばぬ先の医療」推進プロジェクトとは

2040年の高齢化と労働人口の減少を見据え、誰もが必要な医療や介護サービスにアクセスできるまちの実現を目指し、2024年から燕市医師会や地域包括支援センターと連携して「転ばぬ先の医療」推進プロジェクトに取り組んでいます。



本件についてのお問い合わせ先
健康福祉部：本間
電話：0256-77-8197（直通）